

秋塚古墳群 I

平成2年度土地改良総合整備事業秋塚
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

沼田市教育委員会



秋塚古墳群 I

平成2年度土地改良総合整備事業秋塚
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1991

沼田市教育委員会

序

県北・利根地方の中心都市である沼田市は関越自動車道開通後、大規模なほ場整備事業や工業団地の造成をはじめ各種開発事業が実施され大きく変貌しつつあります。これらの事業区内には埋蔵文化財が存在することも多く、その保護対策が急務となっています。

このたびの発掘調査は、秋塚地区の土地改良事業に伴い消滅する古墳を記録保存するための調査でありました。大半がすでに破壊されているとの予想にかかわらず、直刀や馬具・玉類等貴重な遺物が出土し大きな成果を得ることができました。この成果は、当市のみならず利根沼田地方における古代史解明の重要な資料となることでしょう。

最後になりましたが、調査実施にあたり終始御指導、御協力をいただきました関係者の皆様に心から厚く感謝の意を表し序文といたします。

平成3年3月

沼田市教育委員会

教育長 荻野明正

例 言

- 1 本報告書は平成2年度土地改良総合整備事業秋塚地区に伴う古墳群の発掘調査報告書である。
- 2 古墳群は群馬県沼田市秋塚町字前原495番地外に所在する。
- 3 発掘調査は平成2年5月29日～8月23日まで実施し、その後平成3年3月31日まで整理作業を行った。
- 4 発掘調査は沼田市教育委員会が国庫補助事業及び沼田市経済部農地整備課からの受託事業として行なった。
- 5 調査体制は以下の通りである。

教 育 長 佐藤国利（平成2年9月退任）	文化財保護係長 都丸 肇（担当）
荻野明正（平成2年10月就任）	社会教育主事 小池雅典（担当）
教 育 次 長 松井誠二	主 事 宮下昌文（担当）
社会教育課長 角田巻由	

- 6 本書の執筆、編集及び遺物写真撮影は小池が行なった。
- 7 発掘調査及び本書の作成において次の方々から御指導、御協力をいただいた。記して感謝申し上げます。（敬称略）

秋塚土地改良組合、群馬県教育委員会文化財保護課、群馬県埋蔵文化財調査事業団、沼田市農政部農地整備課、清水守雄、松島榮治、松本浩一

凡 例

- 1 第1図は、国土地理院発行の2万5千分の1の地形図「沼田」「後閑」を使用した。
- 2 第2図は、沼田市発行の2千5百分の1の「都市計画図No.3」外を使用した。
- 3 図中の方位は、磁北を表す。
- 4 図中に記載した断面基準線の数字は、海拔高である。
- 5 遺構図、遺物図は、原則としてそれぞれ以下のように統一したが、遺物で縮尺が異なる場合は表示した。

古墳実測図1/100 石室実測図1/50 直刀1/4 鉄鍬・馬具・土器1/3 耳環・玉類1/2

- 6 石室の左右は、入口から奥壁へ向っての方向を基準とした。

目 次

序

例 言

凡 例

I 調査に至る経緯と遺跡の環境	1
1 調査に至る経緯	1
2 遺跡の位置と地理的環境	1
3 歴 史 的 環 境	1
II 調査の方法と遺跡の概要	4
1 調 査 の 方 法	4
2 遺 跡 の 概 要	4
III 検出された遺構と遺物	5
1 号 墳	5
2 号 墳	7
3 号 墳	13
4 号 墳	17
5 号 墳	17
6 号 墳	22

写 真 図 版

I 調査に至る経緯と遺跡の環境

1 調査に至る経緯

平成元年度から開始された土地改良総合整備事業秋塚地区において平成2年度工区が秋塚古墳群の一部に掛かることが明確となった。このため教育委員会は、工事の変更等も含め保存の措置がされるよう要望し農地整備課と協議を行なってまいりましたが、すでに大半が破壊されていることや面積が広範囲に及び工事変更も不可能であるとの判断が下されたため、発掘調査を実施して記録保存することで合意がされた。

2 遺跡の位置と地理的環境

秋塚古墳群は沼田市の中部東端に所在する。この地区は南流する薄根川中流域の右段丘面にあたり西側に丘陵がせまるやや東側に傾斜した幅の狭い平坦地である。標高は450～460mで川からの距離約80m比高差は16mを測る。

調査前の現況は、ほとんどが水田であったが一部に桑園・畑が認められた。

3 歴史的環境

秋塚古墳群(1)の周辺遺跡については、発掘調査例が少なく詳細は不明であるが各時代の主な遺跡について概観してみたい。

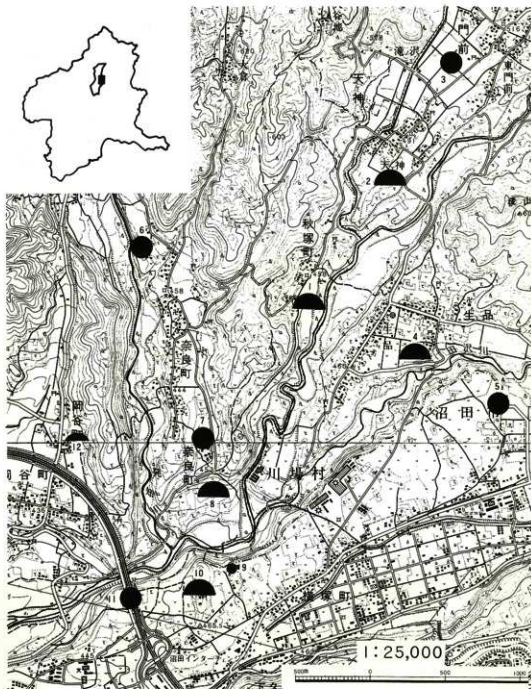
旧石器時代については、現在のところこの遺跡の付近では未確認である。

縄文時代になると川場村橋詰遺跡(3)奈良原遺跡(6)から前期の住居跡が検出されており、鎌倉遺跡(1)からは早期から中期にかけての土器片が少量出土している。

弥生時代は橋詰遺跡・奈良原遺跡・鎌倉遺跡・高野原遺跡(5)奈良田向遺跡(7)から後期樽式期の住居跡が検出されている。

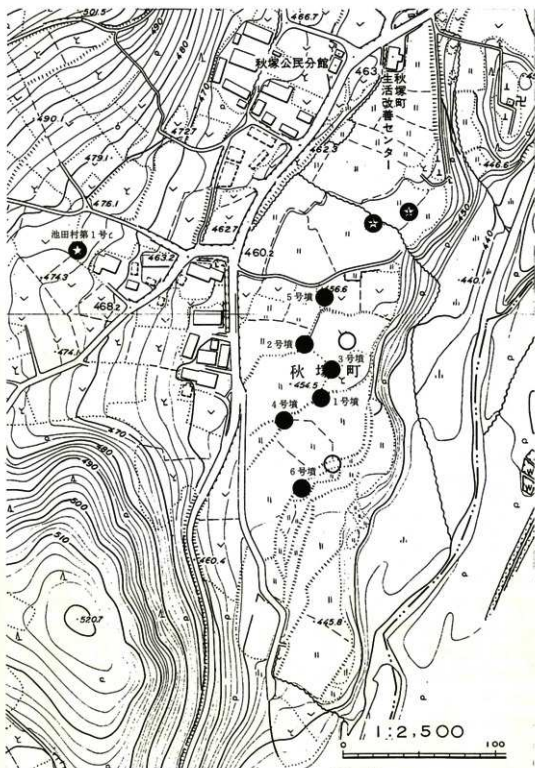
古墳時代になると、高野原遺跡で主体部は不明であるが6世紀中葉前後の古墳群が調査されている。薄根川中流域には、本古墳群の他に天神古墳群(2)生品古墳群(4)奈良古墳群(8)峰山古墳群(12)愛宕山古墳群(10)が知られている。これらの古墳群は、いずれも7世紀代を中心に築造された群集墳である。住居跡は高野原遺跡・清水遺跡(9)から前期の資料が検出されている。

奈良時代の遺跡は周辺地では未確認であるが、平安時代になると住居跡が奈良田向遺跡・奈良原遺跡から検出されている。



第1図 遺跡の位置と周辺の主な遺跡

- | | | | |
|----------|------------|-----------|-----------|
| 1. 秋葉古墳群 | 2. 天神古墳群 | 3. 橋詰遺跡 | 4. 生品古墳群 |
| 5. 高野原遺跡 | 6. 奈良原遺跡 | 7. 奈良田向遺跡 | 8. 奈良古墳群 |
| 9. 清水遺跡 | 10. 愛宕山古墳群 | 11. 鎌倉遺跡 | 12. 峰山古墳群 |



第2図 古墳分布と周辺の地形

II 調査の方法と遺跡の概要

1 調査の方法

大半がすでに破壊され水田の石垣の一部となっていると予想されたため、形状の不自然な石垣部分についてトレンチを入れ、主に石室の確認を行なった。古墳であると明確になったものについては、セクションベルトを残して表土及び覆土を掘り下げて石室、墳丘の調査を行なった。

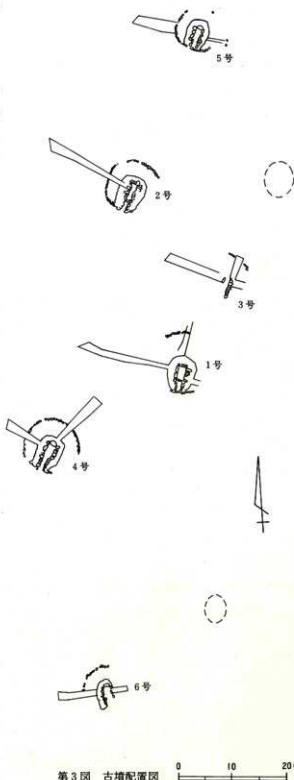
なお、表土・覆土の掘削については、2 m以上の深さの部分もあったので重機を使用した。

図面は、墳丘実測図については1/40、石室実測図・遺物出土図については1/10と1/20を適宜選択して作図を行った。

2 遺跡の概要

今回の調査区内では、6基の古墳跡とすでに完全に平夷されているが古墳があったと想定される部分を2カ所検出した。

調査区内で上毛古墳綜覧に記載があるのは2号墳のみで、池田村第5号にあたる。また、市道西側人家裏の斜面には明治34年に玉類と金環を出土した池田村第1号の古墳が現存しており、段丘北側の調査区域外に点在する古墳と合わせ、10数基で古墳群を形成していたものと想定される。これらの古墳は、直径10m前後の円墳で主体部は全て横穴式石室と考えられる。



第3図 古墳配置図

III 検出された遺構と遺物

1 号 墳

a) 位 置

調査区のほぼ中央に位置する。約8.4m北東に3号墳が、約18.9m南西に4号墳が存在する。

b) 墳丘及び外部施設

大半が後世の水田構築時に破壊され、奥壁・側壁の一部が露出している状況であった。墳丘の葺石根石は、南側及び北側で部分的に検出されたのみである。南北の根石間の距離は11.5mを測りその配置状況から円墳であったと想定される。しかし、北側の列石については葺石の崩落石と根石との判断が困難であったことや、列石がやや不揃いで小ぶりの石が多いことを考慮すると墳丘規模は一回り小さくなる可能性もある。墳丘の盛土は、榛名山二ツ岳形成時に噴出したとされる軽石(Hr-FP)層上にHr-FPと土との混土によってなされている。

周堀については、北側及び西側のセクションから判断すると古墳の基盤層であるHr-FP層が石室裏込め根石部分から4～4.5m程で確認できなくなることや、浅間山噴出の軽石(As-B)層がこの外側にのみ検出されたことから、その存在が認められた。周堀の深さは西側で約50cmを測るが範囲や規模については明確にし得なかった。

c) 主 体 部

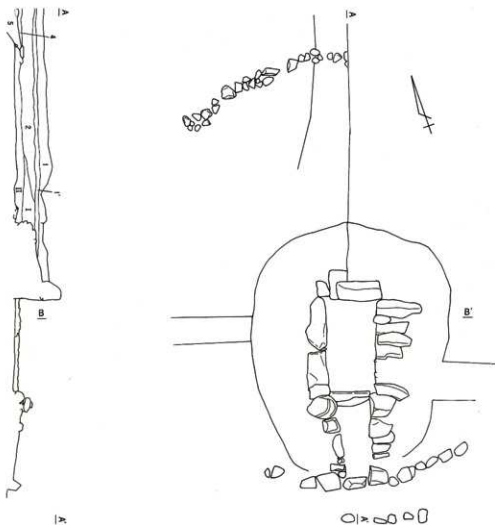
天井石の全てと左壁は最下段を残してすでに抜き取られていた。石室は全長501cmを測る自然石乱石積の横穴式両袖型石室でS-19°-Wに開口する。玄室の壁石は、1段目では比較的大ぶりの割石が選択され平積みあるいは横積みに、2段目以降は羨道部とともに小口積みにされている。

床面は玄室部ではHr-FP層の上に玉砂利を敷き詰め羨道部との境には横長の框石が敷設されていた。羨道部の閉塞は拳大程の河原石を充填し、玄室側ではやや長めの円礫小口積みにしている。

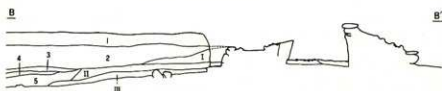
裏込めの平面形は、石室を取り囲むように長楕円形を呈し、外縁は人頭大の礫を石垣状に積み上げて内側に小礫を充填している。

d) 遺 物

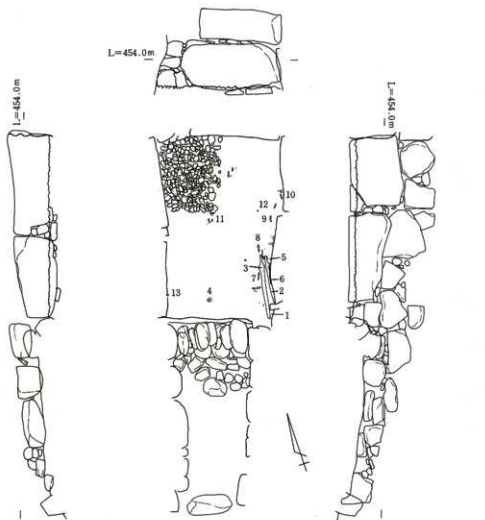
直刀は2振り、玄室南側右壁に沿って切っ先を羨道側に向けた状態で検出された。1は長さ80.8cm、刀身幅は3.0cmで3の鐔が装着された状態で茎の先端付近に目釘が残っていた。2は長さ61.6cm、刀身幅は2.6cmで1・2とも両関平棟である。刀装具は鐔が2点、釵が1点検出された。3・4の鐔はいずれも倒卵形で長径はそれぞれ9.6cmと5.5cmである。5の釵は幅3.0cmで4と共に2の直刀に伴うものであろう。8は刀子で長さ10.1cmを測る。茎の先端部に目釘が残る。鉄鏃は5点検出された。いずれも両刃、片刃の鎌筥被長脚鏃であろう。7は鏃身が錆化してボロボロであったが腸袂が認められる。耳環は2点検出された。12は小型の銅地金張で金の残存状況は良好である。13は銅の地金の中型細身の資料でメッキ部分は剥落している。重量はそれぞれ4gと6gである。



- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 表土層 | I. 灰褐色土層 Hr-FPと土の混。 |
| 1'. 赤褐色土層 酸化土。 | II. Hr-FP層。 |
| 2. 暗褐色土層 Hr-FP多量に含む。 | III. 黒色土層 円礫含む。 |
| 3. 暗褐色土層 Hr-FP多くやや砂質。 | |
| 4. 灰褐色土 As-B層か。 | |
| 5. 黒褐色土 Hr-FP多く含む。 | |



第4図 1号墳実測図



第5図 1号墳石室実測図

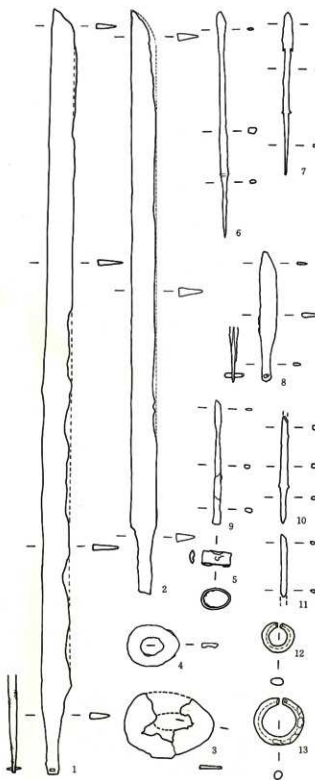
2 号 墳（上毛古墳総覧池田村第5号墳）

a) 位 置

調査区やや北寄りに位置する。約23m北東に5号墳が、約18m南東に3号墳が存在する。

b) 墳丘及び外部施設

総覧には径7尺、高さ5尺と記載があるが現状は水田の畔の一部と化して両羨門石が露出していた。葺石根石は南側から北側にかけて全周の1/3程の残りであり、直径10mの円墳であることが判明した。墳丘は Hr-FP 層の上に構築されており、墳丘の盛土は1号墳と同様に Hr-FP と土



第6図 1号墳出土遺物

との混土による。周堀については西側セクションベルトから判断すると古墳の基盤層である Hr-FP 層が墳丘根石から西へ1.2mで掘込まれ再び西側で立ち上がることから幅約6mの堀であったと想定される。しかし、深さはベルト部分で40cmと浅く範囲は明確にはできなかった。

また、墳丘根石から外側1.5mまで Hr-FP 層が存在することからこの部分がテラス状になっていることが判明した。

c) 主体部

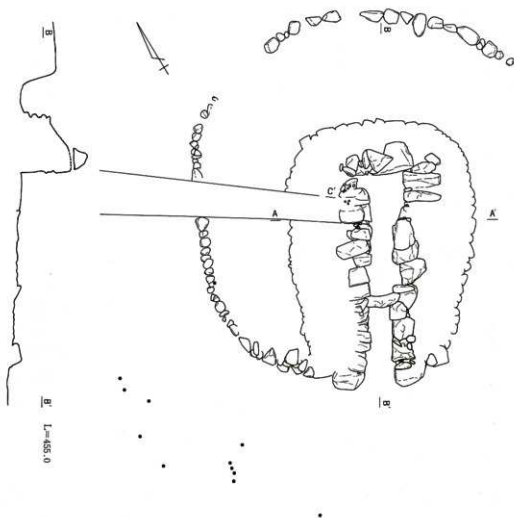
天井石はすでに除去されていたが壁石は比較的良好に残存していた。石室は全長535cmを測る自然石乱石積両袖型横穴式石室でS-31°-Wに開口する。

玄室壁石は1段目は大振りな石が選択され奥壁は1石、側壁はそれぞれ3石による構成で横積みまたは平積みとしている。2段目以上はやや小振りな石を横積みあるいは小口積みとしている。羨道壁石も玄室2段目以上と同様であるが、入口部分には大振りの石の広い面を南に向け柱状に立て羨門としている。また玄室と羨道の境には榎石が現存していた。

床面は玄室部ではやや偏平な礫石の上に玉砂利が敷設されている。羨道部では入口と玄室との境に大振りで横長の榎石が設置されている。閉塞は玄室側の榎石に長めの河原石を小口積みにし、羨道部全体に河原石を充填して行なわれていた。

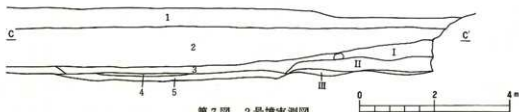
d) 遺物

1は全長23.2cmの小刀で玄室右壁際に検出された。2～5は刀子で3・4には鍔が装着され、3の先端には目釘が残る。6は鉄鐐の

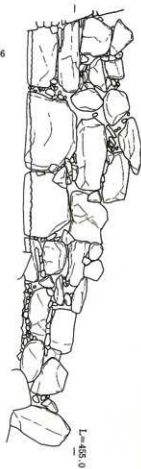
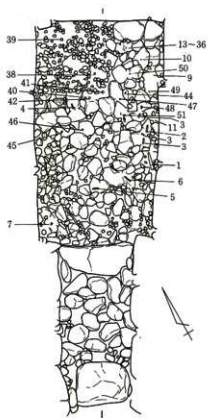
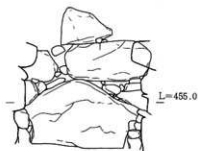


1. 表土層。
2. 暗褐色土層 Hr-FP多量に含む。
3. 黒褐色土層 Hr-FP多くやや砂質。
4. 灰褐色土層 As-B層か。
5. 黒褐色土層 Hr-FP多く含む。

- I. 灰褐色土層 Hr-FPと土の混。
- II. Hr-FP層。
- III. 黒褐色土 円礫含む。

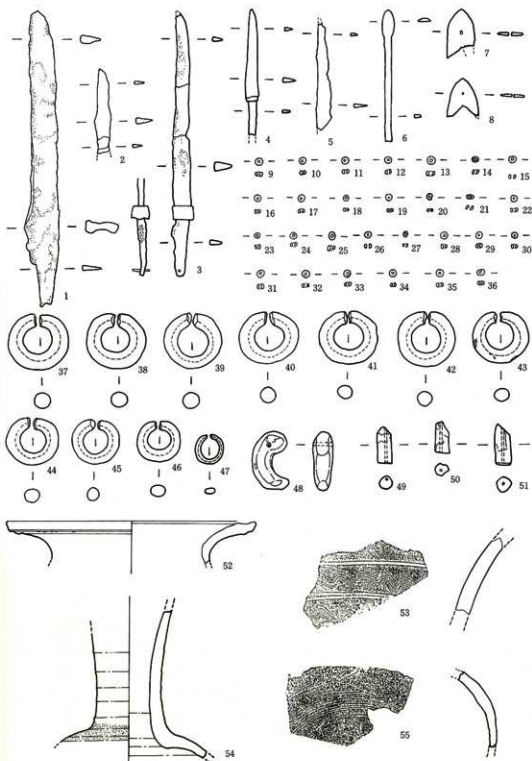


第7図 2号墳実測図

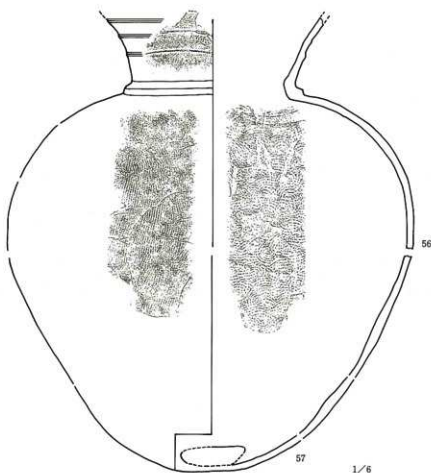


第8图 2号墳石室実測図





第9图 2号填出土遺物(1)



第10図 2号墳出土遺物(2)

鐵身部で端刃箭式である。7・8はいずれも無茎・有孔で腸扶を持つ。7は狭根、8は広根である。9～36は径0.4cm前後のガラス製小玉で、多くは青色であるが13・23・31は黄色である。37～47は銅地金の耳環である。37～46はメッキの残存は不良であるが銀張で、47は小型であるが金が良いに残る。48は瑪瑙製の勾玉である。49～51は頁岩製管玉で黒色を呈する。52・53は須恵器壺の口縁部片で53には沈線区画内に波状文が施される。54は須恵器長頸壺の破片で胴部外面には自然釉が認められる。55は須恵器提瓶の胴部片であろう。56・57は須恵器大甕で、接点は認められなかったが胎土・色調から判断して同一個体であろう。口縁部は隆線により区画されその間に沈線波状文が巡る。胴外面に平行、内面に同心円叩き目文を施す。底部付近には穿孔が認められた。

3 号 墳

a) 位 置

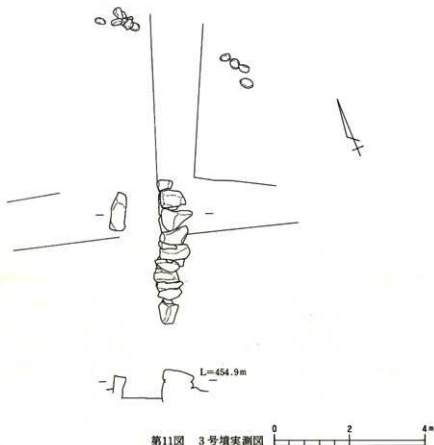
調査区はほぼ中央やや東寄りに位置する。約17.5m北西に2号墳が、約8.5m南西に1号墳が存在する。

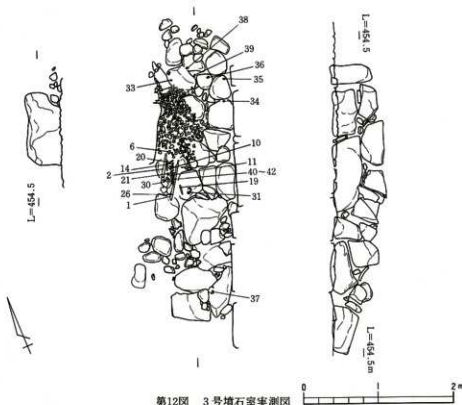
b) 墳丘及び外部施設

調査前は石置場となっていた。墳丘はほぼ完全に平夷されすでに石室側壁の一部しか残存しておらず、葺石に用いられたと考えられる石が北側に検出されたもののすでに原位置になく、墳形及び規模については明確にできなかった。

c) 主 体 部

前述したように石室は、右壁の一部と左壁の一石のみが残存していた。右壁の南半分がやや内側に設置されていることから自然石乱石積横穴式両袖（または片袖）型石室であり開口方向はS-22°-W前後であったと想定される。トレンチのセクションから判断すると石室は Hr-FP 降下後に構築されている。玄室・羨道の壁石とも最下段は横積みあるいは平積みにされ、2段目は小口積みとしている。床面は偏平な板石の上に玉砂利が敷設されていた。

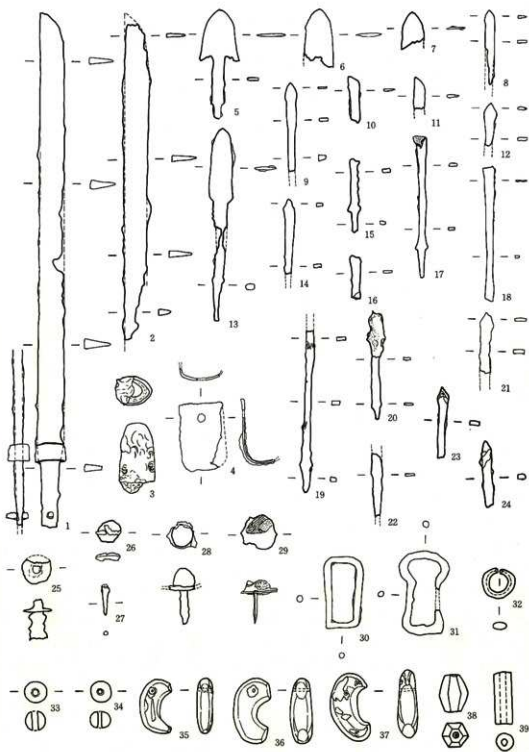




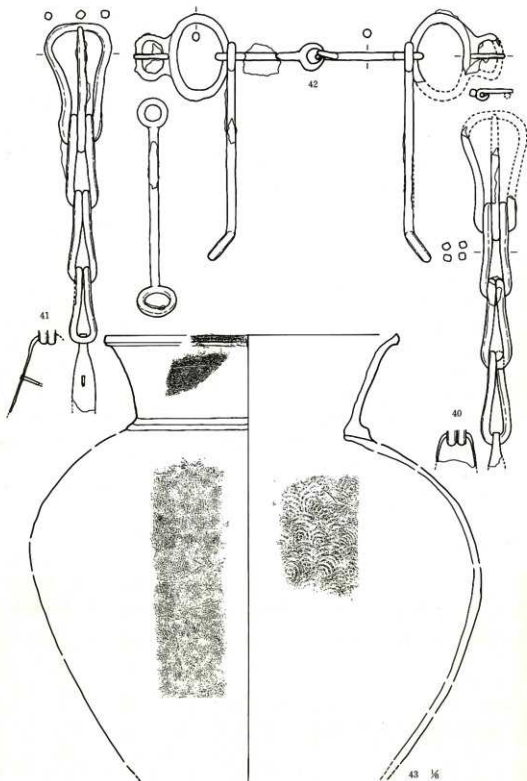
第12図 3号墳石室実測図

d) 遺物

大きく破壊されていた割には多くの副葬品が残存していた。鉄製品類は左壁側にまとまって検出された。直刀は2振り有り、1は全長54.7cm幅2.5cmで鏃・目釘が残る。2は下部を欠損し幅は2.5cmである。刀装具は4の把頭と3の鞘尻金具がある。前者は長さ5.5cmで懸通孔を有する。後者は長さ5.5cm幅2.9cmで表面には銀象嵌が施される。5～24は鉄鏃である。6と7は無茎の狭根式である。5は広根腸袂三角形式、13は狭根両関で棘篋被箭式である。その他は両刃・片刃の棘篋被長脚鏃であろう。25～29は留金具である。28は鉄地金銅張である。30・31は紋具で刺金を欠損する。32は小型の耳環で金が良好に残存する。玉類は7点検出された。35～37は瑪瑙製の勾玉、33・34は黒色の丸玉、38は水晶製の切子玉、39は碧玉製の管玉である。馬具は轡1点と鍔金具1対が検出された。42は環状鏡板付き轡で紋具の立間が付く。40と41は紋具の下に三連の兵庫鎖が付きその下に鍔を留めた逆U字の金具と鉾が残ることから三角錐形木心鉄板装鍔と想定される。43は須恵器大甕で口縁部には沈線区画内と口唇部に波状文が施されている。胴部外面には平行、内面には同心円叩き目文が施される。



第13图 3号出土文物(1)



第14図 3号墳出遺物(2)

4 号 墳

a) 位 置

調査区ほぼ中央西側に位置する。約20m北東に1号墳が、約38m南に6号墳が存在する。

b) 墳丘及び外部施設

調査前は水田の一部と化して奥壁の上面が地表に露出しているのみであった。埋土を除去すると南西から東にかけて墳丘根石と部分的にその上に積まれた墓石が検出された。このことから径10.8mの円墳であることが判明した。墳丘は Hr-FP 層の上に構築されており、封土は他の古墳と同様に Hr-FP と土との混土によってなされている。墳丘根石外側には幅1m前後のテラスが確認された。

周堀はこのテラスの外側に深さ約50cm程掘り込まれ、覆土には As-B 層が確認された。しかしその範囲や規模については明確にし得なかった。

c) 主 体 部

天井石はすでに1石も現存していなかったが、壁石は比較的良好に残存していた。石室は全長504cmを測る自然石乱石積横穴式両袖型石室で S-31°-W に開口する。玄室は大振りな石が選択され1段目では奥壁は1石、側石はそれぞれ3石により構成され横積みと平積みを基調としている。2段目以上はやや小振りな石が使用され平積み、小口積みとしている。羨道部についても玄室と同様であるが入り口部分にやや大振りな石を柱状に立てて羨門を構成している。

床面は玄室部では人頭大前後の礎石の上に玉砂利を敷いていたが部分的にかなり攪乱されていた。羨道部は玄室との境に長めの河原石を小口積みに積んで欄石とし、入り口部分についても同様に積み上げて閉塞しその間に小振りの石を充填していた。

裏込めは石室を取り囲むようにして、外側を石垣状に積み上げ内側に小石を充填している。根石は Hr-FP 層を掘り込んで据えられている。

d) 遺 物

盗掘による攪乱のためか出土遺物は少量であった。1～3は刀子で1は両関、2には鐙が残る。3は刀身部をほとんど欠損する。4・7は須恵器破片である。4は甕の胴部片で表に平行、裏に同心円叩き目文が施される。7は提瓶の胴部片であろう。5・6は土師器小型壺の破片で、羨道入り口左前方からの出土である。

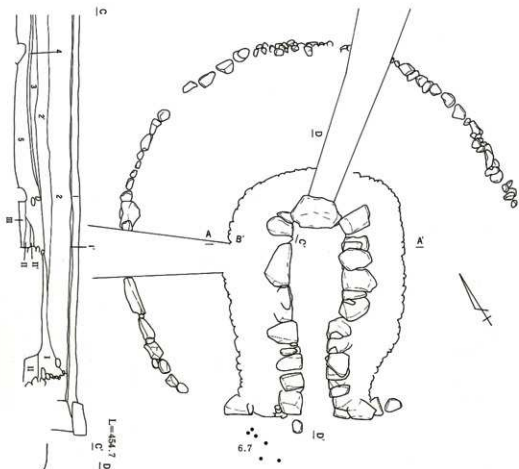
5 号 墳

a) 位 置

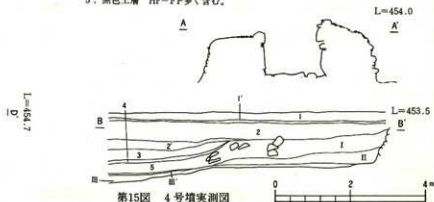
調査区北端に位置する。約13m南西には2号墳が存在する。

b) 墳丘及び外部施設

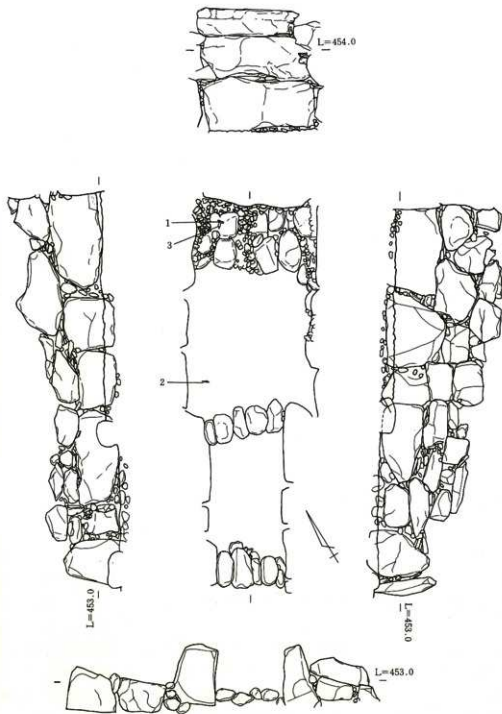
調査前は水田の畔の一部と化していた。すでにほとんど平夷され、石室の下半部と墳丘根石が一部残存していたにすぎない。墳丘根石は南から西側にかけて半周弱が残り、その配列状況から



- | | |
|-----------------------|---------------------|
| 1. 表土層。 | I. 黒褐色土層 Hr-FPと土の混。 |
| 1'. 赤褐色土層 酸化土。 | II. Hr-FP層。 |
| 2. 暗褐色土層 Hr-FP多く含む。 | II'. Hr-FP層 小粒。 |
| 2'. 黒褐色土層 Hr-FP多く含む。 | III. 黒色土層 円礫含む。 |
| 3. 黒褐色土層 Hr-FP含、砂質の土。 | III'. 赤褐色土層 酸化土。 |
| 4. 灰褐色土層 As-B層か。 | |
| 5. 黒色土層 Hr-FP多く含む。 | |

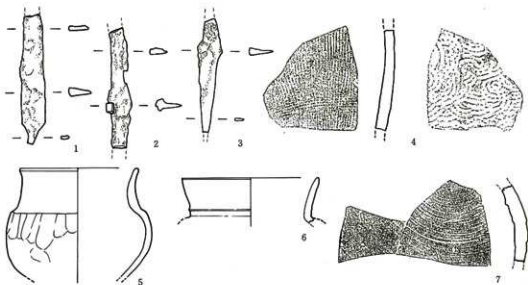


第15図 4号墳実測図



第16図 4号墳石室実測図





第17図 4号墳出土遺物

径約8.4mの円墳であったと想定される。西側に入れたトレンチのセクションから墳丘根石外側に幅約50cm前後のテラスが存在し、その外側に浅い周堀状の落込みがあったと考えられ、As-B層の堆積が認められた。幅約5mを測るが、その範囲は明確にし得なかった。

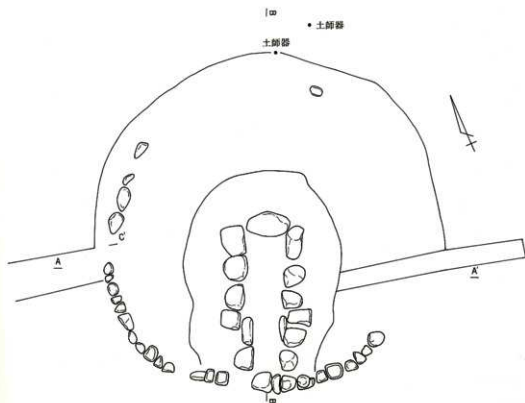
c) 主体部

天井石のすべてと、壁石の上半部は抜き取られていた。石室は全長429cmを測る自然石乱石積横穴式両袖型石室でS-24°-Wに開口する。壁石は他の古墳と異なり、円礫が用いられ、横積み、平積みになっている。羨道入口部の左壁石は抜かれていたが、右壁石は、柱状に立てられ、羨門を構成していたと想定される。

床室床面は、やや偏平な円礫の石の上に玉砂利が敷設されていた。羨道部は、玄室との境と入口部分にやや大振りの円礫を小口積にし、その間、小礫を充填していた。裏込めは、石室平面形に沿って積み、外縁は、石垣状に積み、中に小礫を充填していた。

d) 遺物

直刀は2振検出された。1は玄室左壁羨道寄りに検出され全長72.1cm、平棟両関で2の釦と3の釦が装着されていた。4は全長63.6cm、平棟で釦と釦が装着され、茎には目釘が残る。5は平棟両関の刀子である。6・7は棘笥被広根腸扶三角形式鉄鏃である。8・9は銅地銀張りの耳環で対をなす。10・11は墳丘北側から出土した土師器杯の破片である。12・13は羨道入口前面から検出された須恵器で、12は提瓶、13は短頸壺の破片であろう。



L=456.3

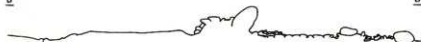
A



A'

L=456.3

B



B'



1. 表土層。

I'. 赤褐色土層 酸化土。

2. 暗褐色土層 Hr-FP多く含む、やや砂質。

3. 灰褐色土層 As-B層か。

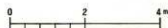
4. 黒褐色土層 Hr-FP多く含む。

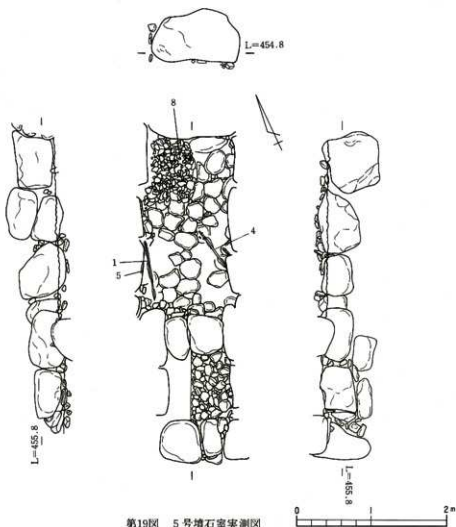
5. 黒褐色土層 Hr-FPが主体。

I. Hr-FP層。

II. 黒色土層 円礫含む。

第18図 5号墳実測図





第19図 5号墳石室実測図

6号墳

a) 位置

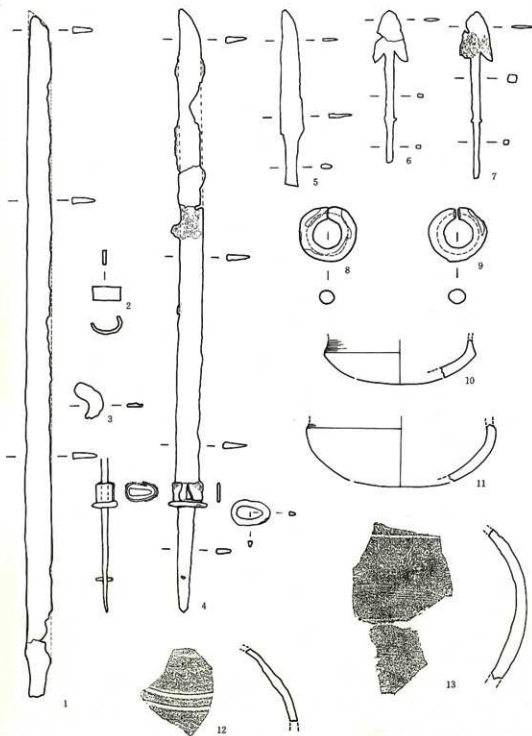
調査区南端に位置する。約34m北には4号墳が存在する。

b) 墳丘及び外部施設

調査前は水田の石垣の一部と化していた。すでに大半が平夷され北側に墳丘根石が検出されたのみである。この部分の列石から推測すると径約9mの円墳と思われる。周堀等についてはその存在の有無を明確にはできなかった。

c) 主体部

天井石のすべてと右壁石及び羨道部石は多くが抜き取られていた。石室は現存長325cmを測る自



第20圖 5号墳出土遺物

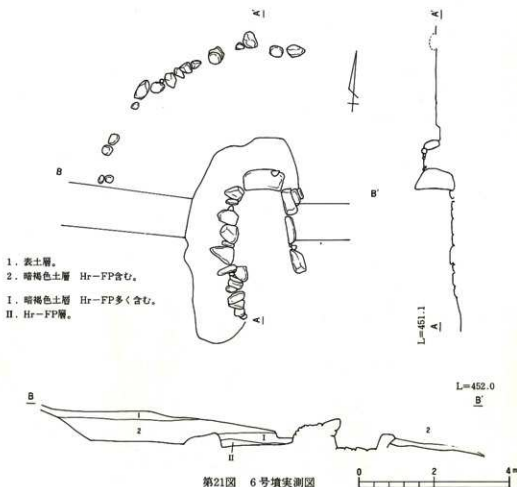
然石乱石積横穴式両袖型石室でS-4'-Eに開口する。

玄室壁石1段目は、奥壁1石、側壁は3石による構成で横積み、平積みとしている。左壁の2段目以降は小口積となる。

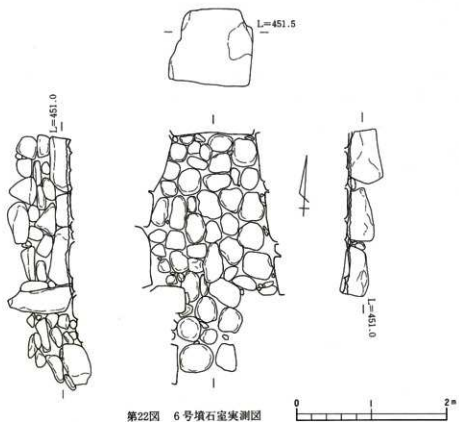
羨道部は左壁のみ現存し、やや内側にせり出して玄門柱が設置されている。床面はやや偏平な礧石が敷かれ、玄室ではその上に玉砂利が施される。玄室の平面形は他の古墳と異なり、玄室幅に比較して全長が短く台形を呈す。

d) 遺物

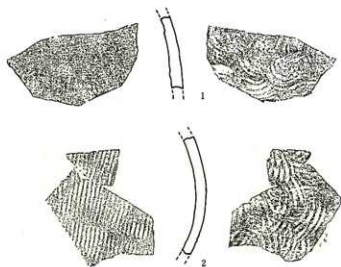
1、2は古墳周縁から出土した須恵器の破片である。両者とも内面に同心円叩目文を有するが外面は1で櫛状文、2は平行叩目文が施される。



第21図 6号墳実測図



第22图 6号墳石室実測図



第23图 6号墳出土遺物

調査古墳一覧表

No	総覧	墳形	径(m)	石			室 (cm)						墳 丘 そ の 他					
				型 式	開 口 方 式	全長	玄室長	玄室幅	羨道長	羨道幅	出 土 遺 物	埴 輪	テラス	周 堀				
1	漏	円墳	11.5	横穴式両袖型	S-19'-W	501	左	236	奥	167	左	248	奥	95	直刀、鏝、錘、刀子、鉄鏃、耳環	無	不 明	有
							中	243	中	145	中	258	中	80				
							右	247	前	141	右	236	前	67				
2	5	円墳	10.0	横穴式両袖型	S-31'-W	535	左	282	奥	170	左	255	奥	100	小刀、刀子、鉄鏃、小玉、耳環、勾玉、管玉、須恵器	無	有	有
							中	285	中	166	中	250	中	94				
							右	285	前	152	右	243	前	80				
3	漏	不明	不明	横穴式両袖型	S-22'-W	—	左	—	奥	—	左	—	奥	—	直刀、把頭、鞘尻、鉄鏃、留金具、鉸具、耳環、勾玉、切子玉、管玉、轡、鍔、須恵器	無	不 明	不 明
							中	—	中	103	中	—	中	—				
							右	—	前	—	右	—	前	—				
4	漏	円墳	10.8	横穴式両袖型	S-31'-W	504	左	290	奥	149	左	231	奥	106	刀子、須恵器、土師器	無	有	有
							中	264	中	163	中	240	中	93				
							右	256	前	168	右	248	前	90				
5	漏	円墳	8.4	横穴式両袖型	S-24'-W	429	左	232	奥	113	左	200	奥	76	直刀、鏝、錘、刀子、鉄鏃、耳環、土師器、須恵器	無	有	有
							中	222	中	114	中	207	中	80				
							右	222	前	128	右	204	前	—				
6	漏	円墳	9 (推定)	横穴式両袖型	S-4'-E	325 以上	左	201	奥	110	左	—	奥	—	須恵器	無	不 明	不 明
							中	—	中	153	中	—	中	—				
							右	—	前	167	右	—	前	—				

写 真 图 版

1号古墳

調査前の状況（南から望む）



閉塞の状況



石室と裏込の状況





直刀出土状況



古墳全景

2号古墳

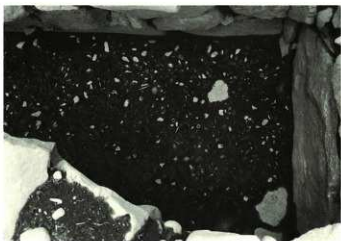


調査前の状況（南から望む）

羨門と閉塞の状況



遺物出土状況



古墳全景（正面）





裏込の状況



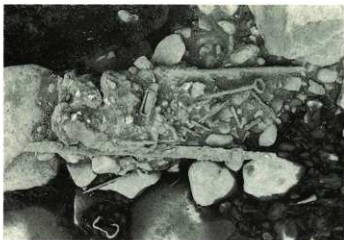
古墳全景

3号古墳



石室の状況

遺物出土状況



側壁の状況



4号古墳



古墳全景（正面から）



石室床面の状況

古墳全景



5号古墳

調査前の状況



遺物出土状況



古墳全景





石室の状況

6号古墳

古墳全景





石室の状況

調査区全景





1号墳-1



1号墳-2



1号墳-6



1号墳-7



1号墳-8



1号墳-9



1号墳-11



1号墳-10



1号墳-5



1号墳-4



1号墳-3



1号墳-13



1号墳-12



2号墳-1



2号墳-3



2号墳-4



2号墳-2



2号墳-5



2号墳-6



2号墳-7



2号墳-8



2号墳-48



2号墳-50



2号墳-49



2号墳-51



2号墳—37



2号墳—38



2号墳—39



2号墳—40



2号墳—41



2号墳—42



2号墳—43



2号墳—44



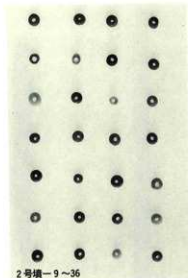
2号墳—45



2号墳—46



2号墳—47



2号墳—9~36



2号墳—52



2号墳—55



2号墳—53



2号墳—54



2号墳—56



2号墳—57



3号墳—1



3号墳—2



3号墳—32



3号墳—6



3号墳—7



3号墳—16



3号墳—8

3号墳—5



3号墳—10



3号墳—11



3号墳—21



3号墳—9



3号墳—12



3号墳—22



3号墳—13

3号墳—14



3号墳—23



3号墳—20

3号墳—24



3号墳—18

3号墳—15

3号墳—17

3号墳—19



3号墳—37



3号墳—36



3号墳—35



3号墳—33



3号墳—34



3号墳—38



3号墳—39



3号墳—3



3号墳—31



3号墳—30



3号墳—27



3号墳—28



3号墳—26



3号墳—25

3号墳—29



3号墳—4



3号墳—42



3号墳—40

3号墳—41



3号墳—43



4号墳—2



4号墳—3



4号墳—1



4号墳—7



4号墳—4



5号墳—1



5号墳—4



4号墳—5



5号墳—10



5号墳—9



5号墳—8



5号墳—6



5号墳—7



5号墳—5



5号墳—3



5号墳—12



5号墳—13



6号墳—2



6号墳—1

秋塚古墳群 I

平成2年度土地改良総合整備事業秋塚
地区に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

印刷 平成3年3月22日

発行 平成3年3月26日

編集・発行 沼田市教育委員会

沼田市西倉内町780

☎ (0278) 23-2111

印刷 朝日印刷工業株式会社

前橋市元総社町67

☎ (0272) 51-1212

